

令和5年度 産業技術系専門職大学院 認証評価

# 改善報告書

**京都情報大学院大学**

応用情報技術研究科

ウェブビジネス技術専攻

令和8（2026）年3月

## 1. 専攻情報

### (1) 高等教育機関名およびその英語表記

- ① 教育機関名称： 京都情報大学院大学 応用情報技術研究科
- ② 英語表記：       The Kyoto College of Graduate Studies for Informatics  
                          School of Applied Information Technology

### (2) 専攻名およびその英語表記

- ① 専攻名称：       ウェブビジネス技術
- ② 英語表記：       Department of Web Business Technology

### (3) 学位名およびその英語表記

- ① 学位名：       情報技術修士（専門職）
- ② 英語表記：       Master of Science in Information Technology (M.S. in IT)

### (4) 連絡先

#### ● 申請責任者

- ・ 氏 名：       寺下 陽一
- ・ 所属・役職名： 京都情報大学院大学・学長
- ・ 住 所：       〒606-8225 京都府京都市左京区田中門前町 7
- ・ T E L：       (075)711-0161
- ・ F A X：       (075)722-2283
- ・ E-mail：      jimukyoku@kcg.ac.jp

#### ● JABEE 対応責任者

- ・ 氏 名：       奥泉 洋子
- ・ 所属・役職名： 事務部・部長
- ・ 住 所：       〒606-8225 京都府京都市左京区田中門前町 7
- ・ T E L：       (075)711-0161
- ・ F A X：       (075)722-2283
- ・ E-mail：      jimukyoku@kcg.ac.jp

## 2. 改善報告

### ●該当箇所

|                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|----------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| (1)基準項目        | 基準 2 (1)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| (2)評価項目        | 学習・教育目標を達成するために必要な能力を持った学生を入学(編入学・転入学を含む)させるため、入学者の受け入れの方針(アドミッション・ポリシー)を明確に設定しており、学内外に公開していること。それを選抜の方法等に反映させて、公正、適切に実施していること。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| (3)評価          | W                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| (4)根拠・<br>指摘事項 | <p>社会へ高度に貢献し得る IT 技術者の育成には、文系理系を問わず多様なバックグラウンドを持った人材に IT(ICT)分野の付加価値を与えるべきという明確な理念に基づき、アドミッション・ポリシー(AP)を定め、Web 公開している。</p> <p>ただし、選抜は、複数の判定項目に対し多段階評価で行われることを記録と面談で確認したが、明文化された判定基準がない。その結果、入学者数が定員を大幅に超過する状態も、前々回、前回評価から改善せず常態化している。実際、2018 年度 360 名の入学定員は、2019 年度 480 名、2020 年度～2023 年度は 600 名、2024 年度(評価対象期間ではない)には 700 名へと増員している。同専攻が示した 2023 年 5 月時の収容定員は 1300 名で、最初の自己評価報告書においては定員との乖離は僅かであった。しかし、三度にわたる数字の検証と修正により、2022 年度末に定員を 3 割以上超過していたことが判明した。さらに、入学者数と専攻修了者数と多年度履修者数、退学除籍者数等との整合を確認したところ、追跡可能な 2019 年度と 2020 年度の退学除籍者の合計は、初回資料の 29 名が次の修正で 85 名、最終修正では 100 名へと増加した。</p> <p>専攻からは、「入学者の予想は定員増員年の 4 年前から可能で、極めて高度な経営判断のもとに策定している」、「学籍管理は厳格に行っている」、「留学生は相手国の状況やビザの発行、コロナ禍の影響により入学者数が変動する」、「学籍管理の基準点による齟齬(5/2 以降に来日した 4 月入学生扱い)が生じる」との説明があったが、変動要因は入学者数の減少と相関のある要因で、増員された定員を超過し続ける理由も示されず、自己評価報告書における基本情報が、修正され続け説明もなされなかった。</p> <p>以上より、まず、選抜が公正、適切に実施されていることを実証するための判断基準の明文化を行う必要があり、さらに、実際に入学者数を適正管理できるように選抜方法を具体的に改善することが必要である。</p> |

### ●該当箇所に対する状況報告

本専攻では、IT (ICT) スキルとマネジメントスキルを兼ね備え、ウェブビジネス分野で活躍できる高度専門職業人を育成することを使命としています。この目標に基づき、出身学部を限定せず、多様なバックグラウンドを持つ学生を広く受け入れています。

入学者選抜においては、アドミッション・ポリシーに沿って、学生が本専攻での学修を通じて高度専門職業人として活躍できるように必要な資質を確認します。具体的には、基礎的学力、問題発見・解決能力、創造力、主体性・学習意欲、マネジメント・協働力を重視しています。

選抜の具体的な手順として、書類審査(自己紹介・志望動機、小論文を含む)では基礎学力、問

題発見・解決能力，創造力，職業経験などを確認します。さらに，入学試験委員による面接を実施し，本専攻の教育内容への理解，学修意欲，コミュニケーション能力，将来展望等について確認しています。

これらの評価については従来より一定の評価基準に基づき実施してきましたが，今回の指摘を踏まえ，評価項目，段階評価基準（A／B／C／D），および合否判定ルールを改めて整理し，文書として明確化しました。

また，入学者選考委員会において，アドミッションセンターおよび入学試験委員の評価結果を基礎資料として複数者により確認・審議を行うことにより，評価基準の統一的な運用を図っています。このように，評価項目および判定基準を文書化し，複数の教員による確認体制のもとで運用することにより，本専攻では入学者選抜を公正・適切に行っています。本学は，今回の指摘を踏まえ，入学者選抜における評価基準および合否判定方法を明文化し，学内で共有することで，さらなる制度運用の公正性と透明性の確保を図っています。

入学者選考試験（アドミッションセンター）と入学者選考委員会における合否判定との対応関係について説明します。

本学では，入学者選抜の公正性および透明性を確保するため，アドミッションセンター，入学試験委員による入学選考と，入学者選考委員会による合否判定を明確に役割分担した二段階方式で実施しています。

両者は独立した制度ではなく，アドミッションセンターで実施した入学選考評価結果を基礎資料として，入学者選考委員会が最終的な合否判定を行う構造となっています。

## 1. アドミッションセンターの役割

アドミッションセンターは入学者選考試験に関する事務を行い，志願者の学修能力，学修意欲および教育理念，アドミッション・ポリシーとの適合性を確認するため，以下の項目について入学試験委員がA／B／C／Dの4段階評価による評価を行っています。本評価は評価者間で基準を共有した上で，総合的な判断資料として用いています。

- 基礎学力（出身大学の成績・GPA）
- 自己紹介・志望動機
- 小論文
- 面接
- 職務経験・実務経験（ある場合）
- 外国語運用能力（留学生のみ）

これらの評価は，評価観点および判定基準を定めた上で，A／B／C／Dの4段階評価により実施します。

本学では，段階評価を点数化・配点化しておりません。これは，数値による形式的な調整や，評価者の裁量による加点・減点といった恣意性を排除し，質的判断に基づく専門職大学院としての適性確認を重視しているためです。

また，留学生については学業を継続し修了に至ることを担保する観点から，留学生が在学中に必要な学費および生活費等の経費支弁能力についても，書類および必要に応じた確認をして

います。

## 2. 入学者選考委員会の役割

入学者選考委員会は、アドミッションセンターが作成した評価結果を基礎資料として、基礎学力・自己紹介・志望動機・小論文・面接・職務経験・外国語運用能力の各評価項目に付された A／B／C／D の段階評価を総合的に確認・検証し、合格者数と入学予定者数についての審議を行い、最終的な合否判定案の作成を行います。合否判定案の作成においては、以下の点に留意します。

- 志願者が本学の教育内容および修了要件を十分に理解し、納得した上で入学を希望しているか
- 学修計画および将来計画に無理がなく、修了可能性が認められるか
- 面接・小論文等の評価において、書類と口頭説明の間に齟齬がないか

## 3. 二段階評価における公平性の確保

入学試験委員における評価は、すべて A／B／C／D の 4 段階評価を、あらかじめ定めた判定基準に基づいて実施しています。入学者選考委員会では、評価結果を基礎資料として、当該年度の募集状況も考慮して合格者数および入学予定者数を審議し、総合的に判断して合否判定案を作成します。職務経験の有無等により志願者に不公平が生じないように配慮しています。

これにより、

- 入学試験委員：多面的・詳細評価
- 入学者選考委員会：統一基準による最終判定

という役割分担が明確となり、評価の重複や恣意的判断を排除した制度運用を実現しています。

## 4. 制度設計上の特徴と説明責任

本学の入学者選抜制度は、

1. 評価観点および判定基準に基づく評価（入学試験委員）
2. 評価結果の確認・検証と統一的な合否判定案作成（入学者選考委員会）
3. 評価項目数の違いに対する公平性の確保
4. 明確な合否判定基準の設定

を組み合わせた二段階構造となっており、入学者選抜における合理性・透明性・説明責任を十分に確保できる制度として設計・運用しています。

※留学生に関する特記事項（学業継続性の確認）

留学生については、入学後に学業を継続し、修了に至ることを担保する観点から、在学中に必要となる学費および生活費等の経費支弁能力についても、入学者選抜の過程において確認を行っています。本確認は、学力や学修意欲に関する評価とは独立して実施されるものであり、合否判定そのものを左右する評価項目ではなく、学業継続性および修了可能性を確認するための補足的確認として位置付けています。提出書類および必要に応じた追加確認により行い、外国人留学生を対象とする在留資格制度の趣旨および関係法令を踏まえて、合理的かつ適切に運用しています。

## 5. 入学者数の管理

定員管理では、2025 年度からの入学定員 1000 名、2026 年度から総定員 2000 名を基準に、年度内 2 回（春・秋）の入学者、各回の日本人学生・留学生、留学生のうち日本語モード・英語モードの各入学者、社会人特別選抜、サテライト入学者の動向を確認しながら、入学者数の管理をしています。特に留学生は、在留資格認定手続やビザ取得の可否、入学辞退の発生等について事前に確定的に把握することが困難であることが挙げられます。本学では、入学定員を超過しないよう一定の見込みをもとに合格者数を設定してきましたが、結果として想定より入学辞退者が少なかった年度において、入学者数が定員を上回る結果となりました。これは、今回整理した評価項目および段階評価基準に基づく入学者選抜制度とは直接的な関係を有するものではありません。今回の指摘を踏まえ、入学定員管理の適切性をより確実に担保するため、国際情勢急変への対応と海外提携校の中長期計画に基づき年度ごとに調整し、定員超過を抑制しながら多様な学生を受け入れ、グローバル人材を育成する専門職大学院の役割を果たしていきます。入学辞退者の発生状況に関する過年度データの分析による合格者数設定の精緻化、入学手続状況の段階的確認による定員管理の強化等の運用改善、入学定員の適切な管理を図る体制の整備を行い、今後は、これらの改善措置により、入学定員を踏まえた計画的かつ適正な学生受入れを継続していきます。

入学選考の運用は PDCA サイクルに基づき継続的に改善しています。Plan 計画段階では評価基準や合格者数算定方法を策定し、Do 実行段階では評価シート運用と複数評価者によるチェックを行います。Check 評価段階では選抜結果や在籍者数・退学除籍者数との整合性を確認し、Action 改善段階では必要に応じて基準や算定方法を見直します。これらの取組みはすべて既に運用中で、実際の選抜に反映されています。

以上の取組みにより、入学者選抜の透明性・再現性・検証可能性が確保され、入学者選抜の公正性・適切性を実現しています。

### ●根拠資料

#### 資料 2-1 入学選考基準

### ●該当箇所

|            |                                                                                                                                                                                                                                             |
|------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| (1)基準項目    | 基準 7（2）                                                                                                                                                                                                                                     |
| (2)評価項目    | 点検・評価システムは、社会の要求や学生の要望に配慮する仕組みを含み、また、点検・評価システム自体の機能も点検できるものであること。                                                                                                                                                                           |
| (3)評価      | W                                                                                                                                                                                                                                           |
| (4)根拠・指摘事項 | <p>社会からの要求に配慮する仕組みとして、学長の下に「教育課程連携協議会(外部評価委員会)」が設置されている。また、当該校及びその要人が多くの IT 企業・地域と連携・交流があり、教員の出身母体も多様なため、社会の要求に鋭敏な組織環境と推察される。実際、数々の改革が迅速に実現されていることは評価に値する。</p> <p>また、学生の要望に配慮する仕組みについても「学生による授業評価」は授業改善に逐次反映されており、「学生生活満足度調査」も図書の拡充や設備機</p> |

|  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|--|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|  | <p>器の更新等、実際の改善に結びつけていることも確認した。</p> <p>一方、「点検・評価システム自体の機能が点検できる仕組み」とは、組織としての継続的改善を持続させるために、現状行われている取組・測定・逐次の結果、点検評価の方法や結果等に対して、俯瞰的にその機能を点検・評価するための組織的なシステムのことである。従って、主たる運営主体や人とは組織的分掌がなされていることが望ましい。</p> <p>専攻では、教育システムの継続的改善への意識が経営層には強くあることは実地調査で確認でき、多くの改善も経営層が強く牽引している。しかし、主たる運営主体とは独立・批判的に評価を行うことができる機能や役割が確認できず、顕在化した課題以外は見落とされる可能性がある弱点が確認された。</p> <p>実際、前述の通り、前々回・前回指摘事項の追跡再確認が自己評価報告書へ記載されていないことが2つの上部委員会でも見落とされ、自己評価書に「現在のところ、問題点が指摘されたことはなく、教育点検システムは良好に機能していると判断されている」と記すことの重大性が組織として認識されていないことも重大である。</p> <p>これらの弱点に対し、組織的・制度的な改善を行うことが必要である。</p> |
|--|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

#### ●該当箇所に対する状況報告

教員の教育改善検討活動や、理事長教育諮問会議の創設などにより、チェック機能の新たな組織化が行われてきたことについては、実地調査時にご報告しており、CQI（Continuous Quality Improvement）機能が十分に働いていることと考えています。

本学では、CQI をチェック体制の点検ではなく、改善のための継続的なプロセスと理解しています。したがって、CQI 機能が十分に働いていることで「点検・評価システム自体の機能が点検できる仕組み」が機能していると考えております。

しかしながら、「弱点」として評価されたことなども考慮に入れ、さらなる強化を図るため、理事長教育諮問会議のメンバー構成を以下のように再構築し、対応しておりますことをご報告いたします。

実地調査時の理事長教育諮問会議のメンバー構成は、総長、学長、副学長、研究科長、企画運営室数名でしたが、多様な視点を取り入れるため、2025 年度より、学校法人情報大学の理事、及びグループ校の各校校長等を加えたメンバー構成に再構築し、理事長教育諮問会議を実施しております。

その結果、従来以上の幅広い視点からの議論がなされ、点検・評価システムの機能がより強化されていることと認識しています。